



p 13 ~

基本構想

第1章 まちの将来像	p14
第2章 まちづくりの目標	p16



第1章 まちの将来像

本計画で掲げるまちの将来像は次のとおりです。

まちの将来像

次世代へ誇れるまち臼杵

～^{むす}掬ぶ、つなぐ、そして創造する～

まちの将来像「次世代へ誇れるまち臼杵^{むす}～掬ぶ、つなぐ、そして創造する～」には、次のような思いを込めて、これからはじまる臼杵のまちづくりを具現化しています。

現在の臼杵には、「自然が豊か」「景観の良さ」「食文化」「歴史」「人の温かさ」といった魅力があります。これらの魅力に加え、文化とともに育まれた「おだやかさ」と「たくましさ」が、時を重ねるごとにまちとしての味をさらに深めています。臼杵に住む人々が、これら臼杵の魅力を再認識し、自分たちのまちに対して誇りを持っています。

このような臼杵の魅力や誇りを大切にし、更なる臼杵の新しい魅力に気づき、創り出していきます。そのために、臼杵で生まれ育った人、臼杵に移住した人、臼杵で新たにチャレンジする人など、あらゆる人が臼杵でつながり、それぞれが臼杵を舞台に光り輝くことができるまちが実現しています。

これからも、臼杵の変わらない景色や人のあたたかさに触れ安心してほっとできる場所として100年先も200年先も臼杵がここにあり続けることで、人と人をつなぎ、心と心をつなぎ、時代と時代をつないでいきます。



^{むす}
掬ぶ

(水などを)左右の手のひらを合わせてすくうこと。
ここでは、「先人が紡いできた、多様な歴史・文化・真心を掬(すく)い上げ、知り、学び、受け継いでいく」という意味が込められている。

まちの将来像は、市民ワークショップや各アンケートなど市民のみなさんと一緒に検討を重ねてキーワード出しやそれぞれが思い描く「こんなまちをつくりたい」「こんなまちになってほしい」を踏まえ、未来へと続く白杵のまちを表現しています。



第2章 まちづくりの目標

本計画のまちの将来像の実現に向けて、6つのまちづくりの目標(10年後のめざす姿)を掲げて取り組みます。

まちづくりの目標

1

住みよいまち

すべての人が年齢に関係なく住み慣れた地域で心身ともに健やかに生活できるよう、健康づくりや疾病予防に関する知識・行動を身につけています。

妊娠期から出産、子育てまで切れ目のない支援を通じて、安心して子育てができるまちとなっています。

障がいや病気の有無に関わらず、だれもが健康で生きがいを持ち、助け合い、安心して生活できる地域コミュニティの充実した共生のまちづくりを進めることにより、魅力ある住みよいまちが実現しています。

まちづくりの目標

2

安心・安全なまち

計画的な道路整備や上下水道の整備、市民のニーズに応じた公園整備、豊かな自然環境や歴史的町並みを活かした景観形成、快適な住環境の整備、DXを活用した効率的なバス運行や道路施設の点検により、日常生活における移動手段の確保や交通の利便性及び安全性が向上し、魅力あるまちづくりが進んでいます。

自然災害の頻発化と激甚化に対し、市民一人ひとりが「自分の命は自分で守る」という「自助」の意識、「自分たちの地域は自分たちで守る」という「共助」の意識を高く持ち、減災対策や災害支援等の「公助」により、有事の際には、主体的に判断し実践できる人や組織、地域、体制づくりにより、安心・安全なまちが実現しています。

まちづくりの目標

3

活気あふれるまち

白杵の豊かな食文化を広め、シビックプライド¹の醸成及び国内外の都市との連携を通じて、食文化を発信し、食関連産業が発展しています。

各産業分野において新たな担い手や将来を見据えた人材育成と円滑な事業承継により、市内事業者の優れた技術・ノウハウ(知見)が次世代に受け継がれ生産性の向上、消費拡大、収益性が向上し、地域の経済循環がより活性化しています。

歴史資源や自然資源等を観光資源として磨き上げ、滞在型や体験型の観光コンテンツの検討、受け入れ体制の充実を図り、国内外の観光客に評価され、活気あふれるまちが実現しています。

用語説明 ¹地域への誇りや愛着のこと。単なる自慢や郷土愛ではなく、自分自身が関わって地域を良くしていこうとする、当事者意識に基づく自負心をさす。

まちづくりの目標

4

学びのあるまち

乳幼児教育や幼小中一体教育を基盤に、ICT機器の導入や公立学校の適切な配置を行い、児童生徒の個別最適な学びと協働的な学びが充実しています。また、コミュニティスクール²と地域学校協働活動を統合的に推進しています。

健康づくりや体力づくりの場、読書環境が充実し、すべての人にとって生きがいを感じられる仕組みを構築しています。

部落差別問題をはじめとするあらゆる人権問題や男女共同参画について、学校や地域、企業、団体に対して正しい知識と理解が浸透し、誰もが互いを認め合い、自分らしく生きることができるとなっています。

白杵に遺る文化財や伝統文化を次世代へ継承し、学びのあるまちが実現しています。

まちづくりの目標

5

思いやりのあるまち

先人が築いてきた自然や環境等を継承するため、カーボンニュートラル³の早期実現や健全で豊かな森林を次世代へと伝えていく取組などにより、経済活動と自然との共生が実感できる地域社会が実現しています。

市民や事業者、団体などが協力し、ごみの適正処理や減量化、資源循環等を推進することで、衛生的で暮らしやすい循環型社会が定着しています。

市民一人ひとりだけでなく、様々な団体や地域などが一体となり、防犯や交通安全、消費生活に関する意識向上や様々な対策を講じることで、安全で安心できる暮らしにつながり、お互いに助け合い思いやりのあるまちが実現しています。

まちづくりの目標

6

持続可能な白杵市へ

市民に寄り添うことができる職員の育成やデジタル技術の活用により、業務の効率化が図られ、より質の高い市民サービスを提供しています。

白杵の魅力や市民が必要とする情報の発信強化、市民が市政に参加しやすい環境整備により、市民の声がより反映された市政運営により、市民満足度が向上しています。

本市の財源や資源、人材を効果的に活用し、計画的に事業を進めることで、安定した行財政基盤を構築し、長期的な視点で持続可能な白杵市が実現しています。

用語説明 ²コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みのこと。

³二酸化炭素をはじめ、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量と吸収量が均衡した状態を指し、日本政府は2050年までにカーボンニュートラルをめざすことを宣言している。



『未来につなげたい白杵の魅力』
スマホ写真コンテスト受賞作品 優秀賞 「いきものさがし」

